

④ 日本国特許庁 (J P)

⑤ 実用新案出願公開

⑥ 公開実用新案公報 (U)

昭62-96682

⑦ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑧ 公開 昭和62年(1987)6月19日

G 08 F 9/00
G 09 G 1/00
H 04 N 5/54

S 1 2

6731-5C

F-6517-5C

審査請求 未請求 (全 2 頁)

⑨ 考案の名称 表示ユニット支持機構

⑩ 実 願 昭60-188186

⑪ 出 願 昭60(1985)12月5日

⑫ 考 案 者 山 田 潔 兵庫県加東郡社町佐保35番 富士通周辺株式会社内
⑬ 出 願 人 富士通株式会社 川崎市中原区上小田中1015番地
⑭ 代 理 人 弁護士 井村 貞一

⑮ 実用新案登録請求の範囲

表示ユニット1を搭載した受台4と、それを支持するベース5とを接合して成る表示ユニット支持機構の構成において、

前記受台4が、該受台4とベース5間に配設されたガススプリング6によつて所望の高さに位置決めされる構成にしたことを特徴とする表示ユニット支持機構。

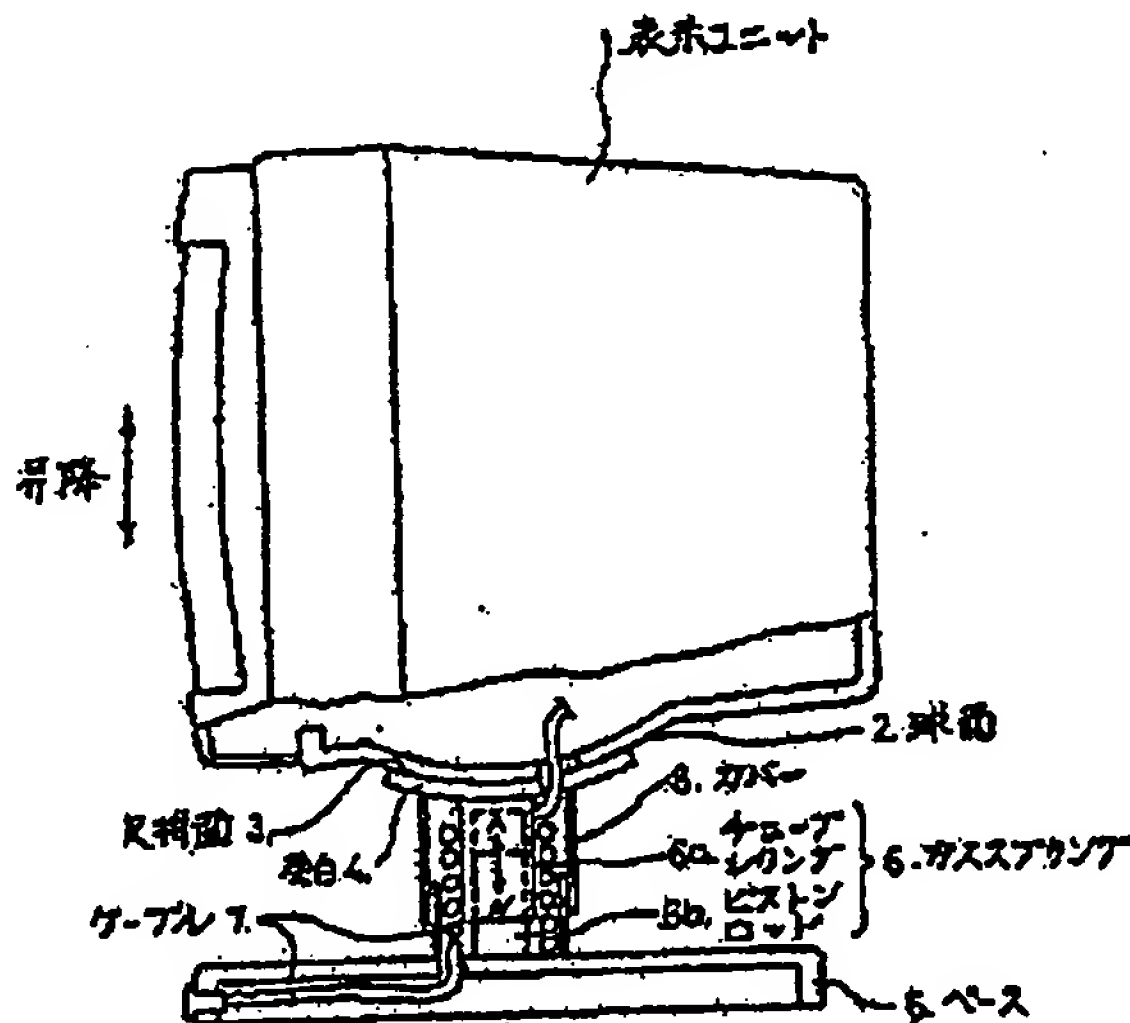
図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例を示す創断面図、第

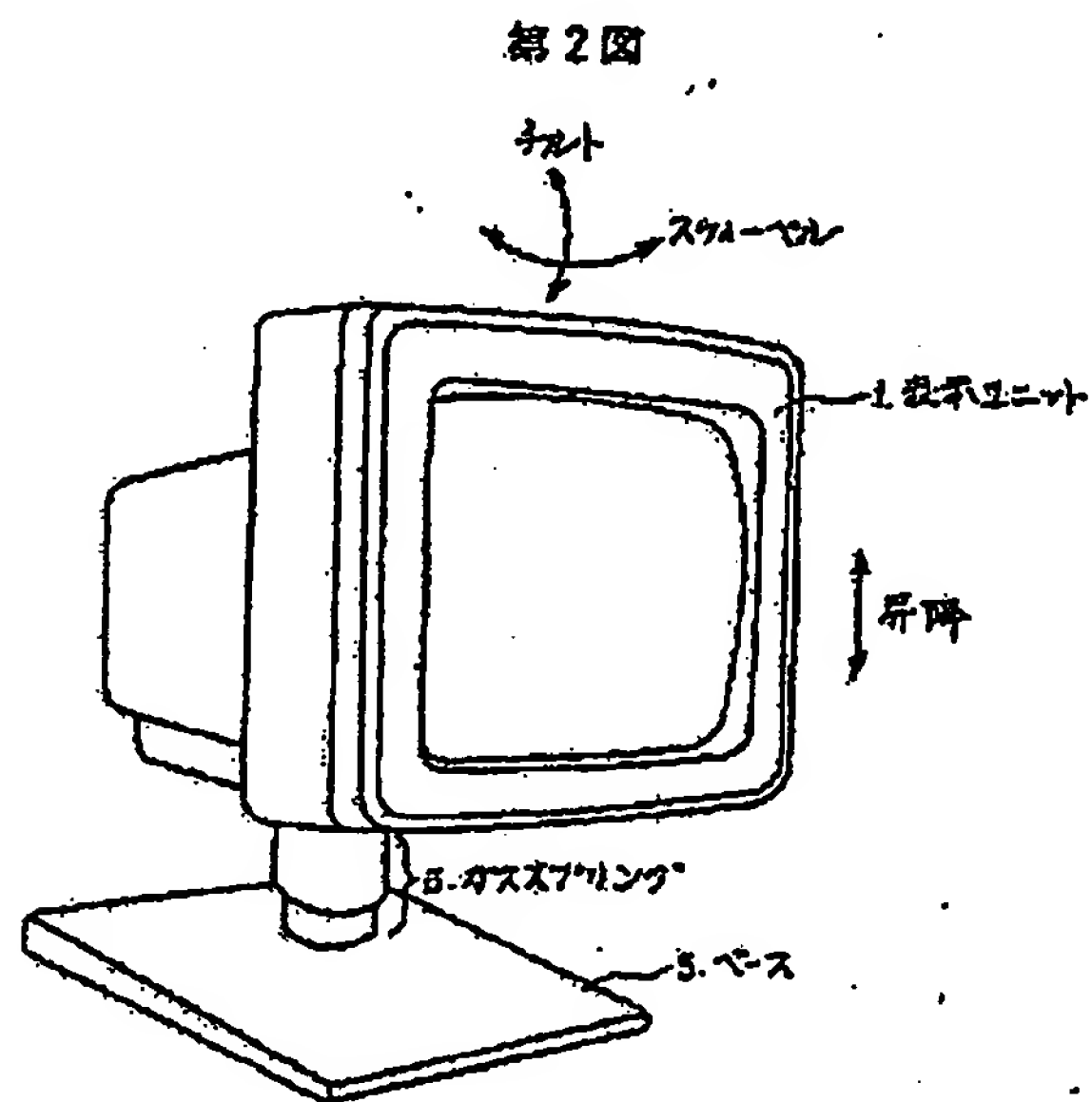
第1図

2図は本考案を適用した表示装置の構成を示す斜視図である。

図中、1は表示ユニット、2は球面、3は支持面、4は受台、5はベース、6はガススプリング、6aはチューブシリンダ、6bはピストンロッド、7はケーブル、8はカバーをそれぞれ示す。



本考案の一実施例図



本発明を適用した表示装置の構成図

公開実用 昭和62- 96682

③ 日本国特許庁 (JP)

④ 実用新案出願公開

⑤ 公開実用新案公報 (U) 昭62-96682

⑥ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑦ 公開 昭和62年(1987)6月19日

G 09 F 9/00
G 09 G 1/00
H 04 N 5/04

3 1 2

6731-5C

F-6517-5C

審査請求 未請求 (全 頁)

⑧ 考案の名称 表示ユニット支持機構

⑨ 実 願 昭60-188186

⑩ 出 願 昭60(1985)12月5日

⑪ 考 案 者 山 田 潔 兵庫県加東郡社町佐保35番 富士通周辺機株式会社内

⑫ 出 願 人 富士通株式会社 川崎市中原区上小田中1015番地

⑬ 代 理 人 弁理士 井 桁 貞一

明 細 書

1. 考案の名称

表示ユニット支持機構

2. 実用新案登録請求の範囲

表示ユニット(1)を搭載した受台(4)と、それを支持するベース(5)とを装備して成る表示ユニット支持機構の構成において、

前記受台(4)が、該受台(4)とベース(5)間に配設されたガススプリング(6)によって所望の高さに位置決めされる構成にしたことを特徴とする表示ユニット支持機構。

3. 考案の詳細な説明

(概要)

本考案の表示ユニット支持機構は、表示ユニットを搭載した受台と、それを支持するベースと、該ベースと前記受台とを伸縮自在に結合するガススプリングとによって構成されている。このためオペレータの体格に適合した高さに表示ユニット



を位置決めする操作が簡易化される。

(産業上の利用分野)

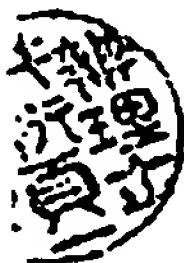
本考案は電算機の周辺機器等に使用される表示装置の改良に係り、特に表示ユニットのチルト、スウィーベル調整に加えて昇降調整を可能にした表示ユニット支持機構に関する。

(従来技術)

従来の表示装置は、表示ユニットのチルト手段およびスウィーベル手段は備えているが昇降手段を持たず、このため表示ユニットを上下させてオペレータにとって最良の作業姿勢をとれるような高さを提供することは不可能であった。

(考案が解決しようとする問題点)

しかしながら、上記チルト機構による画面の俯仰角度の変化だけでは様々な体格のオペレータに対し最良の姿勢を提供することができず、また画面の角度を上向きにした場合は室内照明の影響を



受けて画面が見難くなるという欠点があった。

(問題点を解決するための手段)

本考案は第1図の実施例に示すように、表示ユニット1を支える受台4と、それを支持するベース5との間に両者を伸縮自在に結合するガススプリング6が配設された構成になっている。

(作用)

このように構成されたものにおいては、マニュアル操作で受台4を上下させるといった簡単な操作によって、表示ユニット1を所望の高さに位置決めすることが可能である。

(実施例)

以下図面に示した実施例に基づいて本考案を詳細に説明する。

第1図は本考案の一実施例を示す側断面図、

第2図は本考案を適用した表示装置の構成を示す斜視図である。

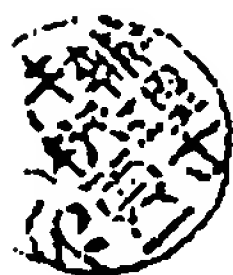


第1図の実施例に示すように、本考案の表示ユニット支持機構は、表示ユニット1の底面に形成された球面2と、表示ユニット1を支える受台4の上面に形成された球形の支持面3とによって構成されるスウィーベル（左右）方向、チルト（俯仰）方向の調整機構と、受台4とそれを支持するベース5との間に配設されたガススプリング6の軸方向の伸縮による上下方向（以下、昇降と呼ぶ場合がある）調整機構とによって構成されている。

以下本考案の特徴である昇降調整機構について詳細に説明する。

本考案における昇降調整機構の主体は、受台4とベース5間に配設されたガススプリング6であることは上述のとおりであるが、本考案の場合はガススプリング6の構成部材であるチューブシリンダ6aが受台4に、そしてピストンロッド6bがベース5にそれぞれ溶接等の手段によって固定されている。

このためガススプリング6が伸縮動作を停止した時は、表示ユニット1はその位置において位置



決めされることになる。

ガススプリング 6 は、チューブシリンダ 6a とピストンロッド 6b とを具備し、チューブシリンダ 6a 内に挿入されたピストンロッド 6b の軸方向、即ち矢印 A - A' 方向に“設定値”以上の荷重が加わると該ピストンロッド 6b が力を加えられた方向へ移動し、該荷重が前記“設定値”以下になると静止するように構成された部材である。

従って表示ユニット 1 を搭載した受台 4 の総重量が例えば 6 Kg の時に上記“設定値”を例えば 8 Kg にしておけば、受台 4 に 8 Kg 以上の力を加えることによって表示ユニット 1 を矢印 A - A' 方向に自在に昇降させることができるし、力を抜くことによってこれを所望の高さに位置決めすることができる。

なお本考案を適用した表示装置に使用されるケーブル 7 は、表示ユニット 1 の昇降動作の繰り返しによる損傷を防止するためにガススプリング 6 の周囲に螺旋型に配設されている。

8 は前記ケーブル 7 を保護するために設けられ



たカバーである。

(考案の効果)

本考案は以上説明したように、表示ユニットをガススプリングで支える構造であるため、該表示ユニットの昇降調整が合理化され、オペレータにとって最良の作業姿勢を容易に提供し得るといった効果大なるものである。

4. 図面の簡単な説明

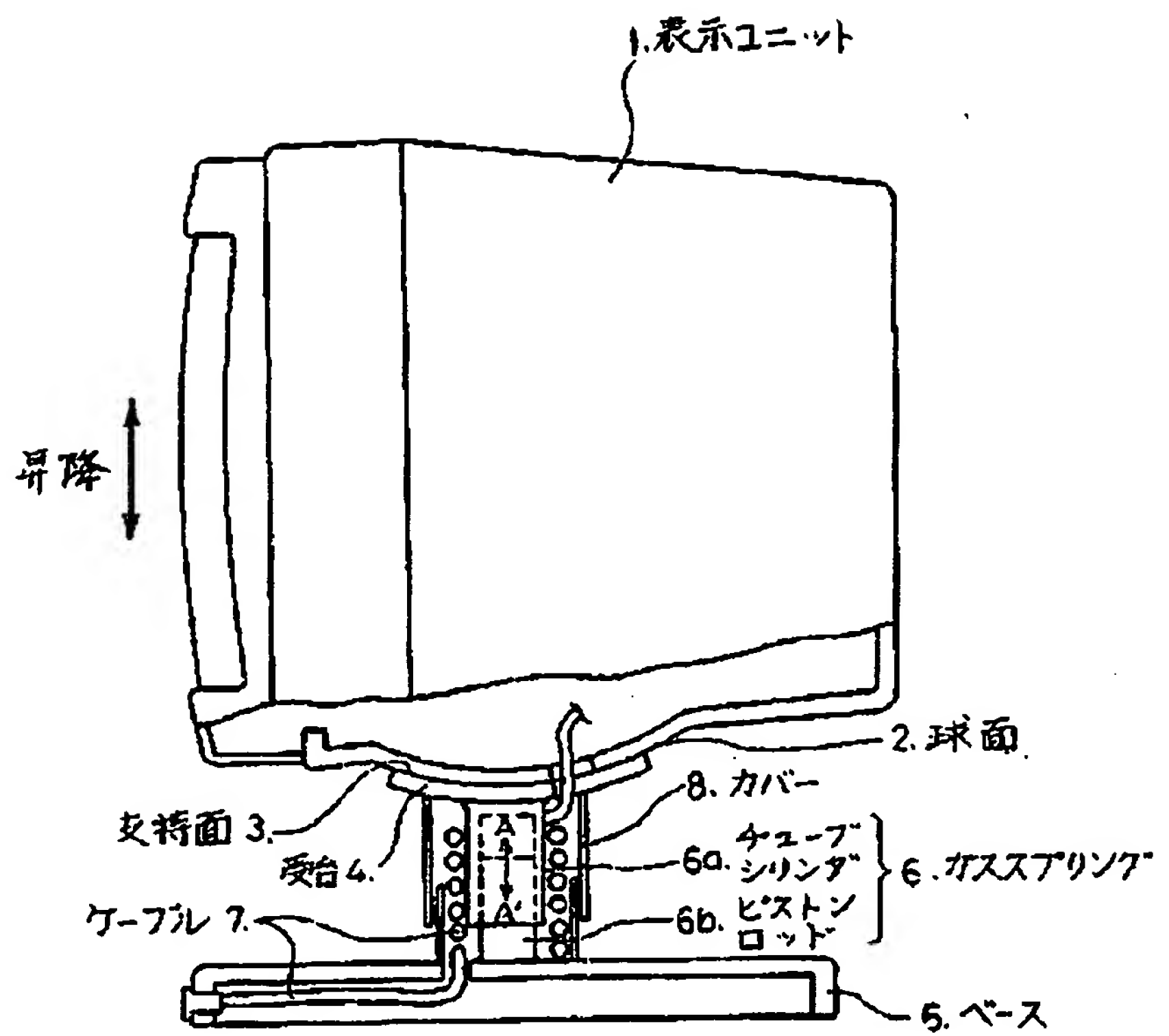
第1図は本考案の一実施例を示す側断面図、

第2図は本考案を適用した表示装置の構成を示す斜視図である。

図中、1は表示ユニット、2は球面、3は支持面、4は受台、5はベース、6はガススプリング、6aはチューブシリンダ、6bはピストンロッド、7はケーブル、8はカバーをそれぞれ示す。

代理人弁理士 井 桁 貞 一





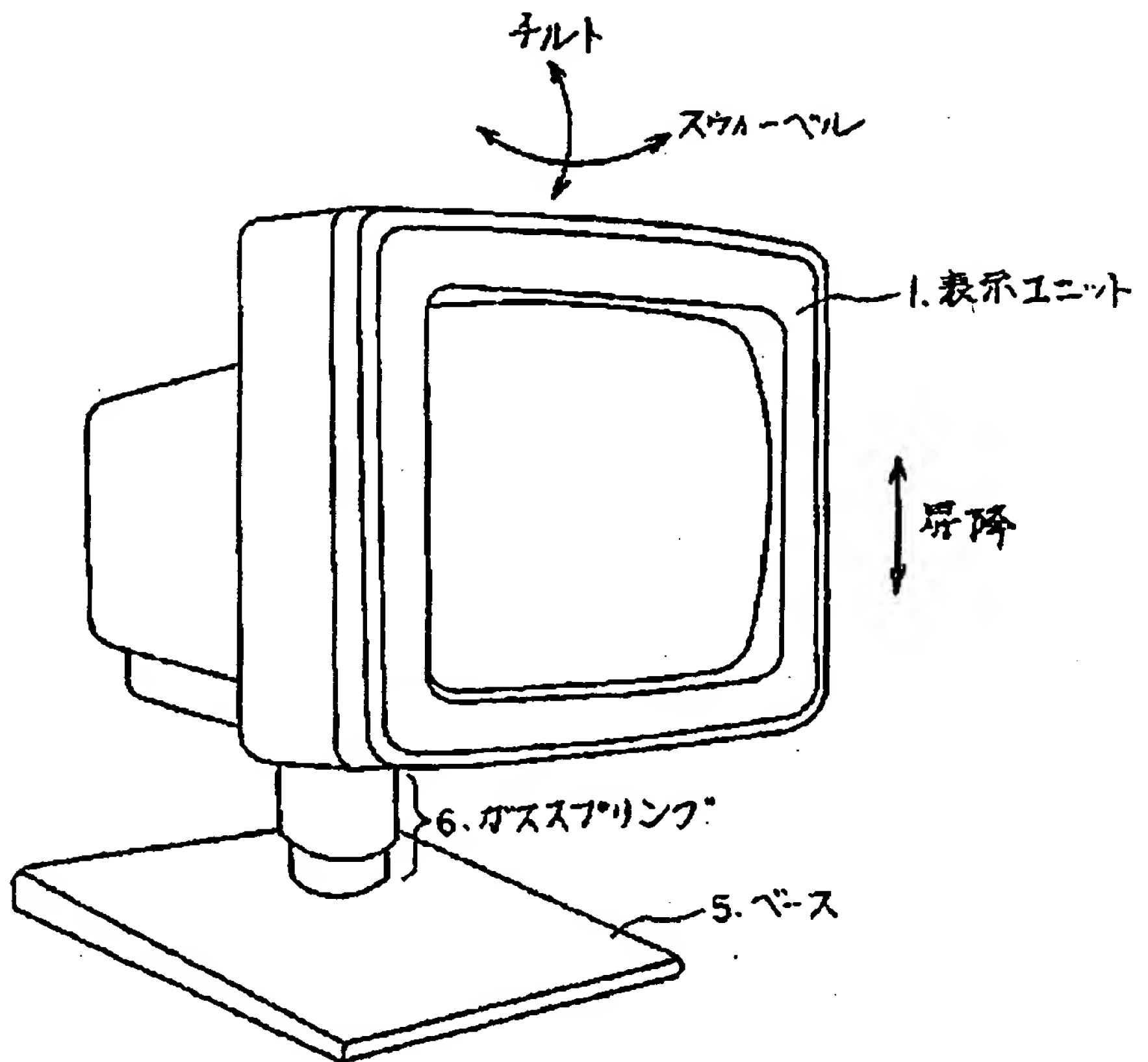
本考案の一実施例図

第 1 図

959

実開02-96000

SAM 002849



本考案を適用した表示装置の構成図

第 2 図

代理人 弁理士 井 桁 貞 一



360